



プロチオコナゾール(新規DMI剤)

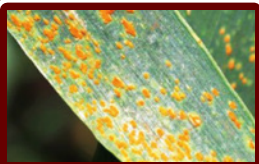
プロライン®
フロアブル

少水量
散布にも
対応

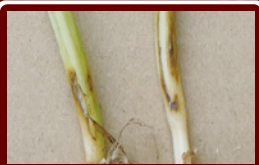
雪腐小粒菌核病、
眼紋病に
適用拡大



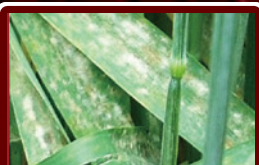
赤かび病



赤さび病



眼紋病



うどんこ病



穂の仕上がりがキレイに!



プロライン無散布区



プロライン散布区

シャープな効果で小麦を守る!
主要病害をしっかりと抑制する殺菌剤。



©プロラインはバイエルグループの登録商標

小麦用殺菌剤

- 農林水産省登録：第24535号
- 有効成分：プロチオコナゾール…40.7% 殺菌剤分類 3
- 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)



製品情報はこちら

ユニークな化学構造を有する新規殺菌剤

- プロライン®フロアブルは、化学構造トリアゾリンチオン(triazolinthione)を有するプロチオコナゾール(prothioconazole)を有効成分とする新規殺菌剤です。

多くの作物病害に対し、幅広い殺菌スペクトラム

- プロチオコナゾールは、子嚢菌、担子菌、不完全菌による多くの作物病原菌に高い抗菌活性を示します。麦類の赤かび病、うどんこ病、さび病、眼紋病などの主要病害の防除薬剤として高い評価を受けています。

小麦の問題病害である赤かび病に高い効果、カビ毒の蓄積も強く抑制

- 赤かび病に対する効果に優れ、カビ毒のデオキシニバレノール(DON)の蓄積を低減させます。
- 赤かび病の2つの原因菌であるフザリウムグラミネアラム菌とミクロドキウムニバレ菌の両方に高い効果を示します。

優れた浸透移行性

- 植物組織内に浸み込み移行することで、高い耐雨性や残効性に寄与します。
- 優れた予防効果を示すとともに、幾つかの病害で治療効果が確認されています。

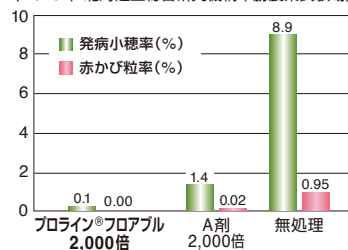
世界で使用されてきた実績、安定した効果

■ 適用病害および使用方法(小麦のみ抜粋) ※その他、てんさいに登録があります。詳しくは製品ラベルをご確認ください。 2024年8月現在の登録内容

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	プロチオコナゾールを含む 農薬の総使用回数
小 麦	雪腐小粒菌核病	2,000倍	60～120ℓ/10a	根雪前	1回	散布	3回以内 （根雪前は1回以内、 融雪後は2回以内）
	赤かび病 赤さび病 うどんこ病 黒点病 黒変病		25ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内		
	眼紋病	2,000倍	60～120ℓ/10a				

■ 赤かび病試験事例

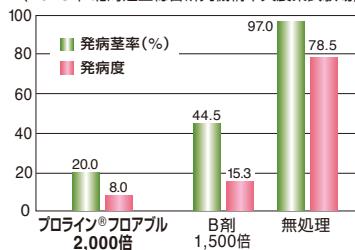
(2019年 北海道立総合研究機構十勝農業試験場)



品 種：ハルユタカ
発生状況：甚発生(接種、Fg菌)
散 布：6月24日(開花始)、7月1日、8日、16日
調 査：7月23日
菌種割合：Fg菌65%、Mn菌35%
※Fg菌 = *Fusarium graminearum*、Mn菌 = *Microdochium nivale*

■ 眼紋病試験事例

(2023年 北海道立総合研究機構中央農業試験場)



品 種：きたほなみ
発生状況：甚発生
散 布：4月27日(幼穂形成期)、5月8日
調 査：6月28日(最終散布51日後)
分離頻度：O. yallundae (FE型) 100%

■ 混用事例 / 品種安全性事例

プロライン®フロアブルは、下記の薬剤、肥料との混用において薬害は認められませんでした。なお、気象条件、栽培条件、生育ステージ、品種などにより異なる結果が得られることも予想されます。これらの事例は使用の安全性を保証するものではなく、あくまでも参考事例としてお取り扱い下さい。

殺虫剤
アグロスリン乳剤、アドマイヤー顆粒水和剤、ウララDF、エルサン乳剤、ゲットアウトWDG、スミチオン乳剤、トレボン乳剤、バイスロイド乳剤、ベイオフME液剤、モスピランSL液剤
展着剤
アブローチBI、グラミンS、ダイコート、ドライバー、ニーズ、ネオエステリン、ハイテンパワー、まぐびか、ミックスパワー、ラビテン3S
肥料
46%尿素、14.0%硝酸石灰、M862号、アミクロ、アミハート、カルシニット、グルハートプラス、サンカラー、ファイン千代田、ベストオース、メチオット

下記の品種ではプロライン®フロアブルの使用で薬害は認められませんでした。

品種名	ゆめちから／きたほなみ／キタノカオリ／ホクシン／チホクコムギ／ナンプコムギ／夏黄金／シロガネコムギ／さとのそら／農林61号／はるきりり／春よ恋／ハルユタカ／ハナマテン
-----	---

■ 注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
- 本剤は貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振って下さい。
- 畜に対して影響を及ぼすおそれがあるので、養蚕で使用する桑葉にかからないようにして下さい。
- 小麦での使用液量は対象作物の生育段階、栽培形態および使用方法に合わせ調節して下さい。
- 本剤を希釈倍数500倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる兼用型の速度運動式地上液剤少量散布装置を使用して下さい。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する

場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

- 誤飲などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の指導を受けて下さい。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指導を受けて下さい。
- 散布の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長スボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをして下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温場所に密栓して保管して下さい。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

BCS24.08



技術普及課／北広島市北の里27番地4 TEL 011-370-2280